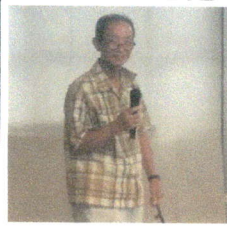


秋の法要・福祉講座

去る九月七日(日)午後一時

徳成寺において、秋の法要が勤まりました。秋とは、名ばかりで最高気温が35度ほどの暑さの中、お勤め致しました。お参り下さいました皆さん、本当にお疲れ様でございました。お勤めのあとに、川崎さんから感話をして頂きました。春・お盆・秋そして報恩講の年中行事に触れて頂き、参詣が呼びかけられました



お話は、令和5年以来、3年ぶりに高知県四万十市から、小笠原望医師にお越し頂きました。先生の優しさは、約30年前に高松市を離れられた後も、間違いなく人々の心の内に響き続けておられるのを実感いたしました。特に、女性に絶大な人気で、一般聴講の方全員にご参加いただ

く事が出来ませず、申し訳ございませんでした。モテる男性は違うなあと感服致しました。

先生の発する言葉の一言一言が、四万十の情景や診察の様子がいふかんと響いてくるので不思議です。

開口一番おっしゃられたのは、理屈っぽい人より、苦笑いとか大笑いで過ごす人の方が長生き出来るということでした。

病気になることを嘆くのか、なつたらなつたで工夫していけるかで随分違うとも教えて下さいました。



さらに続けて、比べるのが好きな人はしんどいとも仰ってました。誰それさんと比べ、5年前の自分や10年前の自分と比べてしまうと辛いので、腰が曲がったとしても、勲章だとも、思う事が大事なのだとか。

左の写真の本堂に入り切れなかった皆さんは、庫裡の一階で視聴して頂きました。

